

インタビュー サステナビリティ経営をどこまでも

法人向け飲料サービスと環境衛生サービスを国内外で提供するダイオーズ。
社会課題の解決に向けた取り組みとは。代表取締役社長 大久保 真一さんに聞く。

きれいにして再びお届け

—事業内容を教えてください。

大きく分けて2つの柱があります。

まず飲料サービスがあります。日本で初めての事業化したオフィス向けコーヒーサービスをはじめ、ティーサービス、ピュアウォーターサービスなどを提供しています。



「出社したくなるオフィス」を演出。世界最高峰のコーヒーマシン「FRAKE」とワールドブリューワーズカップ世界チャンピオン 粕谷哲さん監修のコーヒー

もう1つは環境衛生サービス。玄関マットやモップなどのクリーンケア商品をはじめ空間除菌消臭機などのレンタル、さらに事業所向け定期清掃サービスを行う「ダイオーズカバーオール」などの事業を行っています。

—力を入れていることは？

生態系を保護し持続可能なものにするためには、廃棄物を削減して限りある資源を有効に活用していかなければなりません。私たちはお客さまを定期的に訪問し、使い終わった資材や商品を回収してリユースすることをビジネスの根幹に据え、この課題解決に取り組んでいます。環境衛生商品のレンタルサービスではマットや

モップ、空気清浄機フィルターなどのレンタル商品を定期的に回収し、除菌洗浄、再レンタルを繰り返す。そうすることで、お客さまの衛生的な職場環境を維持しながら廃棄物を削減することができます。また、ウォーターサーバーのボトルにはリターナブルボトルを採用し、ペットボトルゴミの削減に努めています。使い終わったボトルは、徹底的な洗浄工程を経て安心安全なピュアウォーターを再充填、再びお客さまに届けられます。こうしたビジネスモデルを通じて事業領域をさらに広げ、循環型社会の拡大に貢献していきたいと考えています。

「リサイクル」「リユース」の原点

—循環型主体のビジネスはいつから。

実は、私の生家は浅草の小さな米屋で、米以外にもしょう油や油を扱っていました。当時はガラスの一升瓶でしか、しょう油や油は販売していません。中身を使い切ったら空き瓶は店に返してもらい、瓶は洗浄されてまた使用される。「リサイクル」「リユース」といった言葉が世の中に広まるずっと前から、循環型ビジネスを実行していたこととなります。とはいえ、一升瓶に入ったしょう油や油は重いので、特に女性のお客さまにとって持ち運ぶのは大変です。そこで、こうした重いもの、かさばるものを、米と一緒にお届けする「配達スーパー」を始めたところ、お客さまにとっても喜ばれました。業容を拡大するきっかけにもなったのです。

その後、「化学ぞうきん」を扱うようになって